

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	福岡教育大学心理教育相談室における相談活動
対象者	地域市民
実施期間	2001年4月より現在に至る
活動場所	福岡教育大学心理教育相談室
教員名（専門分野） 関係者等	中島義実（心理教育相談室） 相談指導員（教員）4から6名、相談員（大学院生）5名から12名
参加者数	
活動の目的	地域の市民にたいする臨床心理相談サービスの提供
成果	当方が担当した事例において、いじめないしはいじめに発展しかねないケースが3ケースあった。本人たちの自律と成長を促す支援を行っている。
<p>【活動内容】 個別の心理療法。保護者への面接。担任教師への面接。本人への面接。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	古賀市立古賀中学校 学校臨床心理士 (スクールカウンセラー)
対象者	当該中学校の生徒、教師、保護者
実施期間	2003年4月から2005年5月
活動場所	古賀市立古賀中学校
教員名 (専門分野) 関係者等	中島 義実 (臨床心理学)
参加者数	来談者多数 (手許資料なし。学校保管)。
活動の目的	中学生の学校適応のための、様々な支援。本人の相談、教師の相談、保護者の相談など。また、教室に居場所のない生徒の一時避難場所の提供。
成果	いじめに関することでは、教室に居場所のない感じに陥った生徒数名が、休み時間中や、授業時間中の「居場所」として活用し、当方が代わりをもつことで心的エネルギーを回復させ、教室復帰した。
<p>【活動内容】</p> <p>相談室を、教室に居場所のない生徒にとって安心できる場所となるよう、内装や非言語的コミュニケーションが取れるような工夫をし、相互作用が起きるような工夫を施した。</p> <p>次第に相互の対話や、当方との対話が増え、心的エネルギーが増し、教室復帰していくことができた。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	大分県教育センター 10年教職経験者研修「生徒指導」(高特<高>) 講義「青年期の心理を踏まえた生徒指導」講師
対象者	大分県下高等学校教員
実施期間	平成19年度8月10日、平成20年度8月22日、
活動場所	大分県教育センター
教員名(専門分野) 関係者等	中島 義実(臨床心理学)
参加者数	約70名
活動の目的	10年教職経験者研修における「生徒指導」の講義
成果	いじめを行う心のメカニズムの知識を教師たちが身につけた

【活動内容】

10年教職経験者研修の講義であるが、精神分析的発達理論、特に、マラーの「分離・個体化」理論から、つい、いじめに走ってしまいたくなる心性が、我々の中にどのように巣食うのか、そのメカニズムを講義し、理解と対応の手がかりを示した。

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	北九州市子ども総合センター 専門相談員 月1回
対象者	同市内の不登校の児童生徒
実施期間	2009年度より現在に至る
活動場所	北九州市子ども総合センター あいおい支援室
教員名(専門分野) 関係者等	中島 義実(臨床心理学)
参加者数	毎年10名前後
活動の目的	北九州市の適応指導教室である、当該施設において、通い始めた児童生徒にアセスメント面接を行い、指導員たちに今後の見通しを伝え、支援の方針を打ち立てる一助とする。
成果	いじめを苦に不登校となった児童生徒は毎年必ず1名はおり、面接を通して、ダメージの程度を把握し、今後の支援の見通しを示した。面接そのものが、当該児童生徒への支援ともなった。
<p>【活動内容】</p> <p>毎月1回、当該施設に通い、毎回1~2名の児童生徒と面接をする。</p> <p>それを通して、不登校に至った経緯や要因を知り、現状を把握し、今後への見通しを立てて、当該施設の指導員と方針を共有する。</p> <p>そのような中に毎年必ず1名は、いじめないしはそれに近い状態を経験してきた児童生徒が存在する。侵襲的にならないよう、本人の痛みに寄り添いつつ、自我強化的になるような面接を行い、本人の気持ちのケアをすると同時に、当該児童生徒への支援方針を指導員と共有するミーティングを行っている。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	北九州市教育委員会 不登校対策推進協議会議長
対象者	北九州市教育委員会 不登校対策推進協議会 委員
実施期間	平成 21 年度より現在に至る (年 3 回)
活動場所	北九州市教育センター
教員名 (専門分野) 関係者等	中島 義実 (臨床心理学)
参加者数	約 20 名
活動の目的	北九州市における不登校対策を総合的に進める協議会
成果	中 1 ギャップによる不登校の 1 要因としての対人不適応に対して、あらかじめ小学生のうちに強化ポイントを見つけ出すアンケートツールを開発している
<p>【活動内容】</p> <p>協議会そのものは、当該政令市における不登校対策全般を有機的、総合的に連動させるためのものであるが、その中で、この 5, 6 年にわたり、いわゆる「中 1 ギャップ」が当該市におけるキーポイントの一つであるという認識が形成されてきた。</p> <p>その中で、小学生のうちに、中 1 ギャップに立ち向かうことのできる「個人の力」をつけることを目標に、児童一人ひとりの強化ポイントを見出すアンケートツールの作成に着手している。</p> <p>これは、長野県ですでに大きな成果を上げたものである。</p> <p>当然ながらこの中には、対人面での不適応や、いじにつながりかねない状態もターゲットとなっており、いじめ問題を未然に防ぐ取り組みと位置付けることができる。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	大分県教育センター カウンセリング実践研修基礎編 講義「子どもの心理と発達課題」講師
対象者	大分県下小中高教職員
実施期間	平成 23 年度 8 月 3 日
活動場所	大分県教育センター
教員名（専門分野） 関係者等	中島 義実（臨床心理学）
参加者数	約 50 名
活動の目的	教員たちのカウンセリング能力の向上
成果	いじめを行う心のメカニズムの知識を教師たちが身につけた

【活動内容】

カウンセリング実践研修基礎編における、子どもの発達課題に関する講義であるが、精神分析的発達理論、特に、マラーの「分離・個体化」理論から、つい、いじめに走ってしまいたくなる心性が、我々の中にどのように巣食うのか、そのメカニズムを講義し、理解と対応の手がかりを示した。

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	北九州市立教育センター 二年次・三年次・六年次・十年次養護教諭研修，十年次教諭研修，教育相談4研修（これらの合同研修）
対象者	教職員，相談機関相談員
実施期間	平成24年8月3日（3時間）
活動場所	北九州市立教育センター
教員名（専門分野） 関係者等	小泉 令三（学校心理学）
参加者数	71名
活動の目的	「社会性と情動の学習プログラム － 子どもの対人関係能力を向上させ，自尊感情を高めるために－」というテーマで，研修を担当した。
成果	受講者は，いじめ問題を含めた学校不適応を予防し，対人関係能力を向上させて自尊感情を高めるための具体的な取組方法を学んだ。
<p>【活動内容】</p> <p>研修内容は，次の通りであった。</p> <p>(1)子どもの現状と社会性を育てる必要性</p> <p>(2)社会性と情動の学習（SEL-8S）の概要 スキル，8つの社会的能力の内容など</p> <p>(3)SEL-8S 学習プログラムの導入・実践 教育課程への位置づけ方 学習方法，評価方法など</p> <p>特に(1)において，子どもに関する教育問題の一つとしていじめを取り上げ，早期発見・早期対応だけでなく，予防的な取組の必要性を話し，その具体的な取組方法を(2)および(3)で講じた。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(福岡教育大学・教育学部)

活動名	教職員のメンタルヘルス研修会
対象者	大分県公立学校教職員
実施期間	平成 24 年 11 月 29 日
活動場所	大分市コンパルホール
教員名（専門分野） 関係者等	宮田 正和 （健康科学センター、心身医学）
参加者数	150名
活動の目的	<p>教職員は、児童生徒や保護者への対応、職場の人間関係さらには地域住民からの要望など、多重なストレス要因を抱えた職種であり、ストレスを上手にコントロールしていくことが大切であると言われている。</p> <p>そこで、専門家による講演を通して、メンタルヘルスについての知識・理解をより深め、自らの心の健康に対する早期発見・早期対応について学ぶとともに、健康で明るく活気のある職場づくりに資することを目的とする。</p>
成果	教職員にとって日常の問題の取り組みに役に立つ内容であったと考えられる。
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆主催者挨拶 ◆講演：「教育現場のメンタルヘルス」 講演者 宮田 正和 ◆いじめ、ネットいじめを含む教育現場の問題についての講演 	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(佐賀大学・文化教育学部)

活動名	「いじめ問題」に関する講演会および研修会
対象者	PTA 関係者、教職員対象の研修
実施期間	2012年度4月から現在に至るまで講演会や研修会を12回実施
活動場所	依頼先の会場
教員名（専門分野） 関係者等	松下 一世（教育学）
参加者数	50名～100名（12回の総数1000人を超す）
活動の目的	いじめ問題の現状について知り、その対応策を共に考える
成果	なぜいじめが見えにくいのか、いじめとけんかはどう違うのか、子どもたちの意識や気持ちの変化など、具体的に知ること、現実の対応策を考えることができる。 ワークショップ形式では、事例に基づき、その対応を考えて、フロー図を作ったり、子どもにかける言葉をロールプレイすることによって具体的な手立てを知ることができる。
<p>【活動内容】 講演会では90分間の講演を行う。 研修会では2～3時間のワークショップを行い、実際にいじめが起きたときの対応を考える。</p>	

【活動内容】

8/23(木) 8/24(金) 8/28(火) 9:00-16:00

佐賀大学 文部科学省 免許更新制講習

ワークショップ「子どもの心をつなぐ学級づくり」

いじめが起こった場合の対応法についてシュミレーションおよびロールプレイ

8/27(月) 9:00-12:00 伊万里市生涯学習センター 佐賀県伊西地区人権・同和教育研究協議会 伊西地区同
研実践講座 ワークショップ「子どもの心をつなぐ人権教育講座」

いじめが起こった場合の対応法についてシュミレーションおよびロールプレイ

9/1(土) 13:30-15:00 嬉野中央公民館 佐賀県教職員組合西部支部 支部教研

「いじめをなくし、心をつなぐ人権教育」

いじめの定義、特徴、歴史、実態、集団構造、対応策について

10/16(火) 19:00-21:00 長崎県大村市立桜ヶ丘中学校 桜ヶ丘中学校 PTA PTA 研修

「いじめをなくし、心をつなぐ人権教育」

いじめの定義、特徴、歴史、実態、集団構造、対応策について

10/29(月) 13:00-15:30 佐賀県県庁大会議室 市町教育委員会 市町教育委員研修会

「いじめ問題を考える」

いじめの定義、特徴、歴史、実態、集団構造、対応策について

11/15(木) 13:00-15:00 総合福祉センター 児童相談所 児童養護施設家庭支援専門員研修

「子ども世界の力関係」

学校や施設でのいじめの実態について講話

11/24(土) 10:00-12:30 佐賀市 メートプラザ 平和と権利を守る佐賀県女性集会実行委員会 平和と権
利を守る佐賀県女性集会

「いじめ問題から考える女性の権利」

子どものいじめと、ハラスメント、DV、性差別との共通性から考える

12/7(金) 14:00-16:00 佐賀市立図書館多目的室 佐賀市小中学校教頭会 教頭研修会

「いじめをなくし、心をつなぐ人権教育」

いじめの実態と捉え方、対応策、人権教育の役割

12/8(土) 14:00-16:00 鳥栖地区 PTA 連合会 PTA 研修会 {いじめ問題を考える}

いじめの定義、特徴、歴史、実態、集団構造、対応策について

12/13(木) 19:30-21:00 アバンセ 産業医カウンセラー協会 定例学習会 {いじめ問題を考える}

いじめの定義、特徴、歴史、実態、集団構造、対応策について

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大分大学・教育福祉科学部)

活動名	大分市いじめ・不登校等対策協議会
対象者	大分市教育委員会が任命したもの
実施期間	1年ごと
活動場所	大分市教育委員会
教員名（専門分野） 関係者等	武内 珠美（臨床心理学）
参加者数	約 10 名（委員、および大分市教育委員会青少年課）
活動の目的	大分市内の小中学校における、いじめおよび不登校の原因分析や実態調査や、それに対する対策などを、教育委員会青少年課が中心となり、大学関係者や、医師、校長経験者、現職の生徒指導部会の長（小学校、中学校）ならびに事務局が参加して、検討する。
成果	大分市教育委員会青少年課が報告書を作成
<p>【活動内容】</p> <p>大分市内公立小中学校の不登校、いじめの実態調査、原因分析、指導による変化、対応策などについて、協議、検討する。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(鹿児島大学・教育学部)

活動名	いじめ相談員等派遣事業
対象者	鹿児島県内の学校の教職員
実施期間	毎年度（下記の教員は、平成12年度より）
活動場所	県内の公立小中高等学校
教員名（専門分野） 関係者等	有倉巳幸（教育心理）、鹿児島県内小中高等学校、鹿児島県教育委員会
参加者数	不明（年数回、県内の各学校から依頼）
活動の目的	いじめや不登校など、学校現場の諸問題の理解や啓発、支援をおこなうために、鹿児島県教育委員会が毎年、委嘱しているもので、主として、職員研修、児童・生徒、及びその保護者への教育相談、生徒向けの講演会を行っている。
成果	県の教育委員会では行っていると思われるが、個人的には、特に検証していない。
<p>【活動内容】</p> <p>上述したように、いじめや不登校などの職員研修、児童・生徒、及びその保護者への教育相談、生徒向けの講演会を行っている。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(琉球大学・教育学部)

活動名	高知市教員研修会（講師）
対象者	高知市小中高教員
実施期間	2009年度から2012年度
活動場所	高知市教育委員会学校教育課
教員名（専門分野） 関係者等	生徒指導
参加者数	40名
活動の目的	高知市の小中高教員の学級経営力向上
成果	のべ200名を超える教員に対して、学級系実践の研修を実施し、その内容が学校現場で利用されている。
<p>【活動内容】</p> <p>2009年度から2011年度まで、年間10回（2012年度は5回）、高知市の小中高教員に対して、学級経営研修を行う中で、いじめ対策の教育実践について取り上げ、資料を提示するとともに、参加教員の実践を全体で共有している。</p>	